

「第4次千葉市食育推進計画（案）」に対する意見の概要と市の考え方

番号	ページ	意見の概要	意見に対する市の考え方	計画案への反映 ○：反映する －：反映しない
1	6, 7, 8	2 第3次千葉市食育推進計画の評価 と 3 第4次千葉市食育推進計画の概要 へのつながりが、P.8(1) 位置づけ を読んでも、ありません。第3次計画の数値目標33指標の内、△及び×の合計が28指標です。この実態の要因は何かを把握し、反省しないと、第4次を計画しても成果は望めないと思います。	計画書本文において、第3次食育推進計画における指標の達成状況と現在の食育をめぐる状況（要因分析）の間に、第4次食育推進計画の概要が記載されており、ご指摘の通り、指標の要因分析が分かりにくい状況になっておりました。ゆえに、第4次食育推進計画の概要の記載を第3章にまとめ、第3次食育推進計画における指標の達成状況の直後に、現在の食育をめぐる状況（要因分析）を記載するよう改めます。	○
2	21	先ず、小学校と中学校で地場産物（市内＋県内）の使用割合が異なる理由を説明していただきたいと思います。次に、“そこで、関係機関や生産者との連携をさらに深め、学校給食に使用する地場産物を増やす取り組みが必要です”との記載がありますが、現在は使用可能量の確保が限られている野菜・果物の生産量を今後、増やすという方針は、地産地消の精神と異なるような気がします。	小学校では、各校にある調理場で給食を調理します。一方、中学校では市内3か所の学校給食センターで大規模調理したものを配送しています。いずれの方式でも、基本的な方針は地場産物優先ですが、大規模調理の場合は食材の処理能力の限界から加工済みのものを使用することが小学校に比べ多くなり、その場合は地場産物を選定することができないこともあります。そのため、小・中で使用割合が異なることとなります。 次に、ご指摘の通り、地場産物の使用可能量は限られているのが現実です。ここでは、生産量を増やすことを掲げているのではなく、地場産物の調達量をできる限り増やしたいという趣旨になりますが、誤解を招く表現であったため、修正いたします。	○
3	29	基本目標3は、“市民や関係者が連携し活動することで、誰もが健康になれる環境づくりを進めるとともに、未来につながる食育を効果的に推進します”と記載されていますが、基本目標1及び2と同様に“市民や関係者が連携し活動することで、未来につながる食育を効果的に推進し、誰もが健康になれる環境づくりを進めます”が適切だと思います。	基本目標3は、ほぼすべての食育活動を実施する上で基本となるべき事項と考えます。また、基本目標1と2も相互に連携しつつ食育を推進する必要があります。よって、基本目標3については、基本目標1と2を含めて（1, 2の順）設定しました。	－
4	40	フレイル、ロコモティブシンドロームの用語説明を表内ではなく、冒頭でお願いします。また、資料編 4用語説明に記載されていることを何らかの形で表示してください。例えば、フレイル*のようにして、脚注に、*は、資料編の用語解説にあることを示す。を記載する。	資料編 用語説明への脚注を追記します。ロコモティブシンドローム（運動器症候群）は、文章中に（ ）書きをします。 ロコモティブシンドロームについては、用語説明がなかったため追記します。 また、目次に用語説明についての文章を追記し、上記用語以外に掲載されている用語についても、該当用語が最初に掲載されている箇所に*をつけます。	○
5	45	「市民自らの取組み」に記載されている内容は、表題の“保育所、認定こども園、幼稚園、学校等における食育の方針”とは異なるように思います。例えば、「早寝、早起き、朝ごはん」を実践しましょう は、家庭内の食育と思います。	保育所、学校等において対象となる児童・生徒やその保護者に食育を推進することで、対象となる市民（児童・生徒やその保護者）が行う取組みとして掲載しました。	－
6	52	冒頭の文中に“エシカル消費”という言葉が使われています。一般的に馴染みが薄い用語だと思いますので説明を加えていただくと読みやすくなります。せめて“エシカル（倫理）消費”という表現をお願いします。資料編の4 用語説明（P.82）には、記載されていますが、そうであるならば、“エシカル消費*”のように、右肩に*を付けて用語説明があることを表示してください。	用語の右肩に*をつけて用語説明があることを追記します。	○
7	57	冒頭の文章にある“3R”は、P.58の表中にあるように“3R（Reduce・Reuse・Recycle）”としていただきたい。	ご意見のとおり文章中にも記載します。	○

番号	ページ	意見の概要	意見に対する市の考え方	計画案への反映 ○：反映する －：反映しない
8	37, 42	<p>市民自らの取組み P 3 7</p> <p>●非常時でも健全な食生活を実践できるよう食料等を備えましょう。</p> <p>・上記内容に賛同するとともに、以下の内容を追記することをご提案いたします。</p> <p>○非常時でも健全な食生活を実践できるようローリングストックを活用して、食料等を備えましょう。</p> <p>(5) 家庭・地域における食育の推進 P 4 2</p> <p>災害等の非常時に備えた食に関する普及啓発 食料備蓄の取り組み方や献立例など、災害等の非常時に備えた食に関する情報提供や啓発を行います。</p> <p>・上記内容に賛同するとともに、以下の内容を追記することをご提案いたします。</p> <p>ローリングストックなど食料備蓄の取り組み方や献立例など、災害等の非常時に蓄えた食に関する情報提供や啓発を行います。</p> <p>(理由) 九都県市首脳会議 防災・機器対策委員会の家庭での備蓄対策でも触れている通りローリングストックは非常時における食生活の重要なポイントになります。また、内閣府の「できることから始めよう！防災対策」のなかでもローリングストックを推奨しており常に新しい非常食を食べられ、この方法なら普段食べているものが災害時の食卓に並び、安心して食事を採ることができる。と謳っています。本内容を記載することにより、非常時の健全な食生活の意識向上が図れると考えます。</p>	ご意見のとおり、ローリングストックを追記します。	○
9	40	<p>●【新】高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施</p> <p>住民主体の通いの場においてフレイルに関する知識の周知を行うとともに、通いの場の質問票や健診結果からフレイル状態である者への保健指導を実施します。また、検診や医療の未受診者かつ要介護認定を受けていない者にアプローチをし、支援が必要な者について地域関係機関等と連携した支援を行います。</p> <p>・上記内容に賛同するとともに、以下の内容を追記することをご提案いたします。</p> <p>住民主体の通いの場においてフレイルに関する知識の周知を行うとともに、通いの場の質問票や健診結果からフレイル状態である者への保健指導を実施します。また、<u>食事や調理療法を周知してフレイル予防を実施し</u>、検診や医療の未受診者かつ要介護認定を受けていない者にアプローチをし、支援が必要な者について地域関係機関等と連携した支援を行います。</p> <p>(理由) 厚生労働省のホームページにも「食べて元気にフレイル予防」を推奨しており、フレイル予防の食事の取り方等記載しています。調理療法については、日本調理科学会誌の記載にも『調理による認知症ケアと予防の効果』との記載があります。また、農林水産省においても食育からのフレイル予防を推奨しています。今回、「第4次千葉市食育推進計画(案)」になりますので、食事や調理療法からのフレイル予防と明記することにより、一層の意識向上・きっかけ作りが図られると考えます。</p>	フレイル予防は、食事面を含めた生活全体に対するアプローチが重要と考えます。コラムとして、フレイル予防における食事のポイントを掲載する予定です。	－
10	61	<p>市民の食育への関心度を高め、食育を推進するためには関係団体と連携し、日頃から問題意識を共有し、一体的に活動することが大切です。</p> <p>引き続き、家庭、保育所、認定こども園、幼稚園、学校、生産者、食品関連事業者など食に関わる関係機関・団体等と連携・協働した食育推進運動の展開が必要です。</p> <p>・上記内容に賛同するとともに、以下の内容を追記することをご提案いたします。</p> <p>市民の食育への関心度を高め、食育を推進するためには関係団体と連携し、日頃から問題意識を共有し、一体的に活動することが大切です。</p> <p>引き続き、家庭、保育所、認定こども園、幼稚園、学校、生産者、食品関連事業者など食に関わる関係機関・団体・民間企業等と連携・協働した食育推進運動の展開が必要です。</p> <p>(理由) 関係する機関、団体等との連携も重要であるが、関わる知識やノウハウを有する民間企業も含めた連携をすることで、包括的な取り組みを実施できると考えます。また、農林水産省主催の『食育活動表彰』の企業の部においても様々な企業が参加しており、連携を図ることによりノウハウを活用していく事が出来ると考えます。</p>	これまでも企業と連携し、食育を推進してきましたが、さらに市民の食育への関心度を高めるためにも、企業との連携を強化し、新たな食育の取り組みを展開していくことが必要と考え、「企業」を追記します。	○